

# 「歴史総合」よくある質問

## 教科書・指導書

**Q:** 山川の「歴史総合」は3種類あると聞きました。一言で何が違うのでしょうか？

**A:** 生徒の学びの思考の深まりや習熟度に応じてご用意いたしました。

- ・『歴史総合』は叙述を中心とした「探究につながる詳しい記述」
- ・『現代の歴史総合』は資料と問いを中心とした「テーマ・資料・問いで考え、深める歴史」
- ・『わたしたちの歴史』は内容を精選し「見開き 47 テーマ ビジュアルで楽しく学ぶ」

をコンセプトとしております。授業の目的や生徒の習熟度などに応じた工夫を凝らし、それぞれに特色を備えております。詳しくは、各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** 「歴史総合」はこれまでの「日本史 A」「世界史 A」と何が違うのでしょうか？

**A:** 扱う時代は「日本史 A」「世界史 A」と同様に近代・現代が中心ですが、構成は歴史の大きな変化として、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」の3つに注目したものになっています。この3つの変化を軸に、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることをねらいとした科目です。また、「主題」や「問い」を中心に学習を展開すること、資料を活用して考察するなどの学習活動が重視されています。

**Q:** 「歴史総合」教科書の「教師用指導書(教授資料)」の内容・構成を教えてください。

**A:** 「歴史総合」教科書の「教師用指導書(教授資料)」は、3種それぞれの教科書に対応した『授業実践編』と、共通してご利用いただける『研究編』の2冊がございます。『授業実践編』は、授業展開例や問いの解答例、発問例、各資料の解説などが掲載されており、授業・教材研究に即応できる内容となっております。歴史専科外の先生方の授業準備や、ご校務で繁忙の際にご活用いただけます。『研究編』は、生徒の高度な学習に備えるため詳しい「用語解説」を中心に構成いたしております。

詳しくは各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** 「教師用指導書」の「付属データ集」について、どのようなものが用意されているのか教えてください。

**A:** 3種の教科書の「教師用指導書 付属データ集」には次の4つをご用意しております。

1. 教科書紙面データ
2. 教師用指導書紙面データ
3. 授業用スライド&ワークシート

※「ワークシート」は『現代の歴史総合』『わたしたちの歴史』のみ。

4. 準拠テスト例

詳しくは各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

## 教材

**Q:** 「歴史総合」の補助教材の用意はありますか？

**A:** 3種類ある「歴史総合」教科書には、『ノート』をそれぞれご用意いたしております。また、3種いずれの「歴史総合」でも共通してご利用いただける教材も複数ご用意しております。『準拠ノート』については各教科書「内容解説資料」を、補助教材については「歴史総合補助教材目録」をご参照ください。

**Q:** 授業プリントを自作しています。教科書に沿ったデータは何が用意されていますか？

**A:** 各教科書指導書には本文・定期テスト問題例のデータを、準拠ノートをご採用いただいた学校様には準拠ノートのデータをご用意しています。

また、定額でご利用できる「山川&二宮 ICT ライブラリ」には歴史総合教科書の図版データ等も収録予定です。プリントの素材として編集可能なデータもご用意し、先生方の教材研究ならびに授業・定期テスト準備を強力にサポートいたします。

詳しくは当社ホームページ、または「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** 今後、校内のコンピュータや情報通信ネットワークなど ICT の使用環境整備をすすめる予定です。「歴史総合」の「デジタル教科書」について教えてください。

**A:** 「デジタル教科書」は紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、「指導者用」(教材扱い)と「学習者用」をご購入いただけます。

「指導者用」は校内フリーライセンスで、校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。

「学習者用」は 1 ユーザー1 ライセンスで、必要な人数分を購入後、学習者用端末でご利用が可能です。

いずれも学校のオンライン環境に合わせて配信・提供方法をお選びいただくことが可能です。

それぞれのおもな機能など、詳しくは各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

## その他

**Q:** 学校の教員配置上、歴史専科教諭ではありません。どのように「歴史総合」を展開していけばよいのでしょうか？

**A:** 歴史専科外の先生方にも安心してご活用いただけるよう、各教科書ともに資料や問いを多数掲載しています。その活用方法は、教授資料「授業実践編」にて解説しております。授業準備をサポートする充実の内容となっております。

詳しくは各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** 「主体的・対話的で深い学び」について、どのように対応していますか？

**A:** 指導要領において目指されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の資質・能力を育成するために、教科書では以下の点に留意いたしました。

1. 読みとく技能を育成することができるよう、多様な資料を掲載しました。
2. 課題を追究する態度や多面的・多角的な考察を促すことができるように、節(テーマ)や資料に「歴史的な見方・考え方」に基づく問いを付しました。
3. グループワークやペアワークを想定して、調べ学習やオープンな問いを設けました。
4. 上記の活動にむけての知識の部分である本文も十分に記述しています。

詳しくは、各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** 新学習指導要領で評価の仕方は大きくかわるのでしょうか？ その場合、山川出版社の「歴史総合」ではどのような形で評価方法のフォローがされていますか？

**A:** これまでの 4 観点(「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」)から、3 観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」)に整理されます。指導要録の参考様式に記載欄が設けられたことから、観点別評価をこれまで以上に充実し、質を高めることが求められます。このことから山川出版社の「歴史総合」では、各教科書の『教師用指導書 授業実践編』で、「知識・理解」「思考・判断・展開」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価を、問いごとに示したり、授業展開例で明示しています。

詳しくは各教科書「内容解説資料」をご参照ください。

**Q:** シラバス作成の参考として「歴史総合」と「日本史探究」「世界史探究」の近代・現代部分は、指導要領上、内容としてどの程度の重複が見込まれているのでしょうか？

**A:** 「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、「探究」では「日本史」「世界史」それぞれの分野を発展的、具体的に考察することとされています。

すでにお配りをしている「学習指導要領 構造表」をご参照の上、ご確認ください。